

祝敬老の日

日ごろの感謝を込めて

9月19日は敬老の日です。市内の小中学生3人が、幼いころからお世話をしていただいているおじいさん、おばあさんに向けて日ごろの感謝の気持ちを書いてくれました。「いつもありがとう」「これから元気でいてください」。この日は、目上の人へ感謝の気持ちを伝えてみませんか。

問合せ 教育研究所 ☎73・5178

ほくのかまんの
おじいさん・おばあさん



渟城西小学校
3年 小野 仁さん

お客さんのかみを切ったり、顔をそつたりしています。ソファでまっているお客さんとお話をしたり、おじいさんの切ったかみを、さつとかたづけたりします。

お客さんがいない時に、ほくもかみを切ってもらいます。白いこなや、もふもふした物が気持ちよくて、ねむくなってしまうです。

ほくは、八人家族で、おじいさんとおばあさんといっしょに住んでいます。おじいさんとおばあさんは、とこやさんです。二人で力を合わせて仕事をしています。

おじいさんは、いろんなお客さんのかみを切ります。二しゆるいのはさみを使い分けて、かっこいいかみがたにしています。家にいる時とはちがつて、しんけんな顔をしています。「楽しい?」とほくが聞くと、「楽しいよ。」と、答えてくれます。おばあさんも、

れます。それから、地球ぎを使ってほくが出す国キクイズにも答えてくれます。おじいさん、おばあさんは、かみを切るのが上手で、ほくの自まんのところやさんです。これからも、楽しくかみを切って、ほくと一しよにいて、長生きしてほしいです。とてもやさしくて、大好きです。いつも「ありがとう」と、言いたいです。

四人の祖父母



第五小学校
6年 神林 さゆりさん

私には孝じいさんときぬ子ばあさん、金三郎じいさんとし子ばあさんの四

人のおじいさん、おばあさんがいます。みんな近くに住んでいて私たち家族を見守ってくれています。

孝じいさんは漁師です。二年前までは働きながら海に出ていました。最近あまり魚がとれなくなったと言っています。とれたときは私たちに届けてくれます。魚をさばくのが上手で、おさしみも作ってくれます。ひざが悪くて歩くのがおそいですが、船の上では生き生きと働いています。

きぬ子ばあさんは明るくて笑顔がかわいいです。スーパールのレジに並んでいるとき前の人や後ろの人と仲良く話をしていて、後で「友達?」と聞くと「知らない人。」と言っていておどろきました。だれとでもすぐ仲良くなるのは話し上手で聞き上手だからだと思います。料理も上手で、特にチャーハンに行ったとき、あまりのおいしさに三食チャーハンにしてもらったことがあります。

金三郎じいさんは目が見えません。若いころは見えていましたが、目の病気で見えなくなったそうです。マッサージュの仕事をしています。自分のことは全て自分でします。外に出るときは白杖を持ちますが、家では自然に動いて見えている人と変わリません。花や木を育てるのが大好きです。私の頭をポンポンとさわリ「大きくなったなあ。」と言います。

とし子ばあさんは私に習字を教えてください。そして習字で賞をもらったからおこづかいをくれます（他のおじいさん、おばあさんもくれます）。おこづかいをもらうと次もがんばろうという気持ちになります。きびしいときもありますが、美しく書けるとほめてくれます。習字の後、おばあさんが小さかったころの話や若いころの思い出を話してくれます。昔のことを頭の中で想像しながら聞くと、とても面白いです。お父さんは孝じいさんに似ています。見た目ですが、真剣に仕事に取り組みるところやお酒が大好きなところも似ています。人なつっこいところ、明るいところはきぬ子ばあさんに似ています。そしてお母さんとはし子ばあさんにそっくりです。大人しい性格は金三郎じいさん似です。兄さんはお父さんに似ているし、私はお母さんに似ています。

おじいさん、おばあさんのDNAはお父さん、お母さんに受け継がれ、兄さんや私の中にも四人は紛れこんでいます。それはとてもうれしくほこらしいことです。つながっていると自信がもてます。そして、勇気がわいてきます。私はつながれた命を大切にし、私自身を大切にします。おじいさん、おばあさんに心配かけることなく、成長した姿を見せたいです。仕事をしてお金をかせげるようになったら恩返しをしたいです。それまで元気でいてください。いつまでも。

曾祖母と家族



東雲中学校
2年 中田 音花 さん

私には、九十二歳になる曾祖母がいます。私が小さい頃から元気に畑仕事をしたり、雑草などを刈ったりしていました。とても元気で、八十歳を超えているとは思えない元気さでした。

特に、心に残っている出来事は、毎朝小学校に通う時に、部屋から顔を出

して「今日は何時頃帰ってくるの、行つてらっしゃい。」と必ず声をかけてくれたことです。これが毎日の日課になっていました。

しかし、三年前くらいにいろんな事が忘れっぽくなってきました。以前までの元気な曾祖母の面影はなく、たまに会いに行くとは違つた曾祖母の姿に私も切ない思いになりました。曾祖母は短期間老人施設に入りました。寒い冬に暖かい施設に入り休むことになりました。この頃になると、私は部活もあり習い事もありで、曾祖母に会うことはほとんどなくなりました。だから、施設に行くとなつた時も、また戻ってくるだろうと思つていました。あつという間に冬が終わり、曾祖母が戻ってきました。前よりも歩く時に腰が曲がつているなと思うことがありましたが、畑に元氣に向かう様子を見て安心していました。

そんな時に朝、祖母が家に、曾祖母が喉にご飯を詰まらせたこと知らせにきました。ものすごく驚いて、家族全員で見に行きました。すごく心配で、曾祖母も歳をとつていくんだなと思ひました。見た目は昔のまま、あまり変わつていなくても、いろんなところが変わつていくんだなと思ひました。

小学校の頃から、私も成長して大きく変わつてきたように、曾祖母も変わ

つていくのを実感します。私は何か変わつていつてしまうのが怖かつたのかなと思います。昔の曾祖母と比べて今の曾祖母をしっかりと見ていなかったと思います。

いつの間にか、曾祖母の背を超し、会う機会も減つていくけれど、できるだけ会う回数を増やし、これからも元氣な曾祖母でいてほしいので、支えていきたいです。曾祖母を家族で支えて行くには、曾祖母に声をかけるのはもちろんのこと、曾祖母の介護をしている祖母の手伝いをすることも大事だと考えました。きっと、私も曾祖母もこれから少しずつ変わつていくと思います。こういう変化に合わせてお互いに支え合つていくことが家族の幸せに繋がるはずで。自分から積極的に動いて、少しでも家族の幸せに貢献していきたいです。私も成長して、どんどん変わつていく姿を見せていきたいと思っています。

